

令和7年度入学式 学長告辞

浜松医科大学学長の渡邊です。
新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
浜松医科大学を代表して、皆さんのご入学を心から
歓迎いたします。また、これまで
皆さんを見守り、応援下さったご
家族や保護者の方々にも、心から
お慶び申し上げます。皆さんは、
将来、医療の世界で貢献したいと
決意され、受験勉強に励み、本

日、浜松医科大学に入学されました。自分の希望する職業への切符を、この時点で手にしていることは、とても幸せなことだと思います。初心を忘れず、また今日まで応援下さった周りの方々への感謝も忘れず、将来の夢の実現に向けて、どうか充実した学生生活を過ごして下さい。人とのつながりを大切にし、他者を尊重するという姿勢を育て、勉学とともに、医大生として今しかできないことにもチャレンジし、彩り豊かな学生時代を築かれることを祈っています。



さて、浜松医科大学は昨年開学 50 年を迎えました。半世紀前の開学の時から変わらずに本学が大切に守ってきたのが建学の理念です。「優れた医療人を育成し、独創性のある研究成果を世界に発信し、地域医療の中核的役割を担う」という思いは現在でも、変わることなく受け継がれています。卒業生の皆さんは日本のみならず、海外においても広く活躍され、我が国の中で大きな信頼を築いています。卒業生は昨年度までに医学科 4,755 名、看護学科 1,821 名に達し、多方面で活躍しており、本学や他大学で教員として後進の指導や研究を実践し、基幹病院で先進医療や救急治療に対応し、あるいは医療過疎地域で住民の信頼を得て、医療活動を実践される方もおられます。また医師会や行政において日本の医療の中核を担っている方も少なくありません。現在、静岡県内の勤務医の約 3 割が本学の関係者となり、地域の医療・看護、福祉に多大な貢献をしています。このことに皆さんは誇りと、また

同時に浜松医科大学の一員としての自覚を持って学生時代を過ごしてほしいと思います。



さて、世界の状況を見ると新型コロナウイルス感染はひと段落したものの、戦争は続き、経済的環境も先行きが見通せ

ないこととなっています。このような社会の出来事に対しても、遠い世界の事ではなく、自らが関連する事と捉え、本質が何かを自ら考え、問題を発見し、答えや新しい価値を生み出す力がとても重要になります。本学では論理的思考力、判断力、表現力、創造力などを涵養しうるような、学びの場を皆さんに提供します。こうした環境の中で、皆さんが主体的に学び、医療人あるいは研究者としての資質を高めていくことを期待しています。

さて、今後の生活を送るにあたり、皆さんに5つのことをお伝えします。まず、一つ目は、情熱を持ち、自分を信じ、挫けないことです。医療人をめざす情熱と使命感を持ち、困難に直面しても、自分自身の可能性を信じ、挫けずに取り組み、成長してください。

二つ目は、想像力を養い、共感力を高めることです。医療は技術だけではありません。患者さんを含む他者を尊重し、共感する力を育みながら、より良い医療を提供できる人材を目指して下さい。

三つ目は、価値観を確立することです。医療は生命に関わる分野であり、自ら価値観を磨き、適切な判断を下せる医療人を目指してほしいと思います。

四つ目は、コミュニケーション能力を涵養することです。どのような社会でも円滑なコミュニケーションは不可欠な要素です。特に医療現場では、患者さんや医療従事者同士のコミュニケーションは欠かせません。手始めのコミュニケーションは気持ちの良い挨拶であり、感謝の言葉です。信頼関係の構築を意識し、良好なコミュニケーションを築く力を養ってください。

最後は、セルフケアの必要性を認識することです。医療人として他者を支えるためには、まず自分自身の健康を維持することが大切です。心と身体のバランスを整えて健康な生活を送ってほしいと思います。不安に思うことは遠慮なく先生方や学務課の職員に質問し、身体的、精神的な問題については、保健管理センターにいつでも相談に来てください。

以上の5つです。皆さんが真摯に勉学に励み、多くのことを学び、考え、病める人に共感できる感性を持ち、建学の理念の最後に謳われている「人類の健康と福祉に貢献する」優れた医療人や研究者に成長することを期待しています。



これからの大学生活が実り多く、充実したものとなることを祈り、学長告辞と致します。

令和7年4月7日

浜松医科大学長 渡邊 裕司